

米国血管外科学会総会Vascular Annual Meeting2017委員会出席報告

Report from 2017 Vascular Annual Meeting in San Diego

兵庫医科大学心臓血管外科

日本血管外科学会評議員・国際委員

米国血管外科学会員・2017年度米国血管外科学会国際関連委員

山村光弘

1) 米国血管外科学会総会 Vascular Annual Meeting の歴史

米国血管外科学会 (Society for Vascular Surgery以下SVS) 2015参加報告を本学会ホームページに記載しましたように、日本血管外科学会総会は Annual Meeting of Japanese Society for Vascular Surgeryと表記されますが、米国血管外科学会総会はVascular Annual Meeting (以下VAM) と表記されます <http://www.jsvs.org/ja/event/svsvascularannualmeeting/>。

1947年設立当時は米国しか血管外科学会はなかったので、"American" Society for Vascular Surgeryと命名する必要がなかったのです。でも年配の先生はご存知かと思いますが、21世紀に入り米国心臓外科医と米国血管外科医の立場について論争がおき国際心臓血管外科学会 International Society for Cardiovascular Surgery も解体したので、2004年からは総会はVAMと表記され現在に至っております。

SVS構成する地方会からみると、カナダ血管外科学会 Canadian Society for Vascular Surgeryは米国東部 New England Society for Vascular Surgery 等と同様にSVS構成する地方会として認められているので、正確にはSVSはカナダ・アメリカ合衆国血管外科学会と訳したほうがいいかもしれません。また各SVS構成地方会は地方会長 PresidentがSVS理事 Directorを兼ねています。さらに各SVS構成地方会発表はSVS機関紙 Journal of Vascular Surgeryに地方会抄録集が掲載されます。一方メキシコ血管外科学会はずっと蚊帳の外で、やっと今年から米国血管外科学会メキシコ国際支部 Mexico Chapter of SVSになりました。

SVS日本人会員はずっと7名しかいませんので規定15名に満たなかったのですが、2014年やっと米国血管外科学会日本支部 Japan Chapter of SVSになったのは承知のとおりです。国際支部会は本来のSVS構成地方会ではないので国際支部から理事選出できませんが、下記に説明する米国血管外科学会国際関連委員会 SVS International Relation committeeにオブザーバー参加できます。今年も名古屋大学古森教授が米国血管外科学会日本支部 Japan Chapter of SVS代表として出席されました。

2) 今年の状況は？

今年は米国 San Diego Convention Center で、5月31日から6月3日の4日開催されました (プログラム表紙下記に示します)。事前参加費はSVS会員683ドル・非会員会費887ドルと値上げされ高額でしたが、16名の日本

人事前参加者がありました。 発展途上国は参加費350ドルと減額されており中国本土から62名と今年も多数参加なので、今年から米国血管外科学会中国本土支部 China Chapter of SVS が認められ展示会場にブースもありました。一方台湾および香港から参加費減額なく日本人と同額で、事前参加者もそれぞれ7名と1名でした。これらは米国の中国に対する政治的立場を反映しており、米国血管外科学会国際関連委員会 SVS International Relation committee からオブザーバー通知も、中国本土血管外科学会にも台湾血管外科学会にも別々に出されます。

演題採用率はかなり厳しく、2014年採用数147題（採用率31%）でしたが、上記のように海外演題申込増加しているので2015年から学会1日目午後に International Fast Talk・International Forum が追加され、採用数379題（採用率54%）に増加しました。今年度はさらに学会1日目午前に日本支部・中国本土支部・ドイツ支部・ブラジル支部・メキシコ支部から発表の International Chapter Forum も追加され、採用演題391題（採用率53%）でした。

日本からの発表は、International Fast Talk は20題中で旭川医大 Kikuchi 先生・Miyake 先生と赤穂中央病院北川先生の3題と、International Forum は16題中で徳島大 Kawatani 先生と函館市民病院森下先生の2題でした。第2日目の Plenary 口演は41題中で小倉記念病院 Ozaki 先生が発表され、Poster Competition には117題中で慶応大飯田先生・山形大学黒田先生の2題で合計3題、全部あわせると8題+ α でした。演題数から日本からの発表数をみると、やはり米国外からしか応募できない学会1日目の International Chapter Forum・International Fast Talk・International Forum が狙い目で、第2日目の Plenary 口演と Poster Competition は米国内から応募が基本なので難関です下記に応募資格等を一覧表にしましたので、来年以降参考にしてください。（なお International Chapter Forum と Interactive Poster は当日プログラムに掲載されないの失礼ながら割愛しました）。

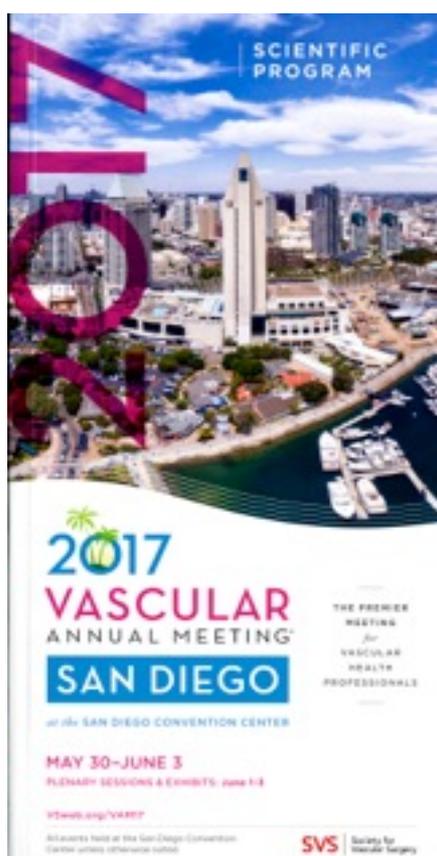
3) 米国血管外科学会国際関連委員 SVS International Relation Committee

まず SVS 前会長・現会長・次期会長・現副会長・現事務局長 Secretary および SVS 理事 Director 1名から構成される米国血管外科学会役員推薦委員会 SVS Nominate Committee が、10年以上の SVS 正会員歴や SVS 業績等を考慮して3月末までに次期 SVS 理事候補および委員候補を推薦します。その各候補から立候補するか2週間以内の返答を待ちます。もちろん委員候補が全員立候補するわけではないので通知は多め出され、SVS 現会長・次期会長・現副会長から構成される米国血管外科学会役員選考委員会 SVS Appointment Committee が各立候補から VAM 総会前の5月下旬までに SVS 委員選出します。

今年度山村は2017年度米国血管外科学会国際関連委員 Member of SVS International Relation Committee に選出されたので、同委員会出席が今回の目的でした。同委員会は上述したように毎年選出しなおすので、初回は2016年選出委員と2017年選出委員の合同委員会です。今回の司会は2016年選出 Robert Crawford 委員長でしたが、2017年選出委員会の構成は、委

員長にHaimovici 第6版監修者で2006年会長のEnrico Ascher教授を始め、男性医師15名・女性医師4名にSVS事務局秘書2名で構成されています。人種構成は黄色人種2名・黒色人種・インド系・アラブ系それぞれ1名で他14名は白色人種ですが、米国外から選出は山村の他に北京とポーランドワルシャワの合計3名のみで、他16名は米国およびカナダ施設内から選出です。

米国血管外科学会は、世界をリードすべき米国血管外科学会の立場と米国内の血管外科医のための米国血管外科学会の立場があり、これも米国の国際政治的立場を反映しています。具体的には、世界をリードすべき立場から学会1日目のInternational Chapter Forum・International Fast Talk・International Forumの充実をめざしつつ、米国内の血管外科医のための立場から第2日目以降の口演・Poster Competitionの厳選な選考を維持することです。今年度は米国血管外科学会国際関連委員会SVS International Relation Committeeにも積極的に参加し、日米血管外科学会の橋渡しとなることで両学会の発展に微力ながら寄与したいと思っております。



米国血管外科学会総会Vascular Annual Meeting2017応募一覧

	International Chapter Forum	International Fast Talk	International Forum	Plenary	Interactive Poster	Poster Competition
応募資格	国際支部からのみ	米国外からのみ	米国外からのみ	米国内外	米国内外	米国内外
	日本は日本SVS支部なので可					
応募年齢	?	35歳以下	なし	なし	なし	なし
申込時SVS会員可否	不要	不要	不要	必要	必要	必要
	ないときはSVS国際関連委員会が承認	ないときはSVS国際関連委員会が承認	ないときはSVS国際関連委員会が承認	ないときは他SVS会員同意要	ないときは他SVS会員同意要	ないときは他SVS会員同意要
発表日時	1日目午前	1日目午後	1日目午後	2日目ー4日目	2日目	3日目
発表形式	?	口演	口演	口演	解説なしポスター	解説ありポスター
						選出されると4日目口演
プログラム抄録掲載	なし	あり	あり	あり	なし	なし
機関誌JVS論文掲載	なし	なし	なし	あり(査読後)	あり(査読後)	あり(査読後)
演題総数	?	20題	16題	約45題	?	約120題
日本から演題採用数	?	3題(15%)	2題(13%)	1題(2.2%)	?	2題(1.6%)